



ミミズは、なぜちぎれても動くの

切られた部分は、まだ生きている

たいていの動物の体では、手や足の各部分にある、一つ一つの細胞は、心臓が送り出す血によって運ばれてきた、酸素や栄養分を受け取りながら、生きて活動しています。その動物が死ぬと、心臓が止まり、血が送られなくなって、新しい酸素や栄養分がなくなり、体の各部分の細胞は、だんだん死んでいきます。ですから、手や足を切られたばかりのときは、まだその部分は生きています。また、切られたときの、痛みを感じた神経も残っています。そのため、切られたばかりのミミズや、ちぎれたトカゲのしっぽなどが、ぴくぴく動くのです。

このぴくぴく動くことで、敵の注意をそちらに向けさせて、もう一方の体は、にげ出せるといって、役目もしています。

ミミズは、切られても、元通りになれる

ミミズは、体の一部が切れたりしても、元通りになる再生力が、とても強い動物です。体を半分に切られると、頭がついていたほうの体は、すぐ切られた後る半分の部分をつくって、元通りになります。後るの半分は、頭の部分を再生できないで、やがて死ぬことが多いのですが、切られる場所とミミズの種類によって、完全に2ひきになることもあります。

人間の体も、手術で元通りにできる

人間の指が、機械にはさまれて切れたときなど、すぐ、指をもって病院にいけば、くっつけることができます。切れた部分の、細かい血管や神経などを、手術でじょうずにぬいあわせれば、元通りに、指をなおすことができるのです。（監修・中山 周平）

